

令和八年七月号

《第百六十三号》

しるへび

宗教法人岩國白蛇神社

〒740-0017

今津町六丁目4-2

☎ 30-3333

文月の祭典・行事案内



【月次祭】 九時半

六日(月)

三十日(木)

【崇敬会役員会】

十一日(土)

【昭和天皇御製】〈第二二四代〉

「声」

日日のこのわがゆく道をたださむと
かくれたる人の声をもとむる

「鳩」

静かなる世になれかしといのるなり
宮居の鳩のなくあさばらけ

「山下湖畔の宿にて」

しづかなる山下湖には白鳥のうかぶ
姿も見えてくれゆく

(昭和四十一年)

【月次祭並天皇皇后両陛下阿蘭陀王国
白耳義王国御渡航行幸啓安泰祈願祭】

六月十二日

六月十三日より二十六日の間、天皇皇后両陛下にはオランダとベルギーの国賓としてお



招きを受けられ、十四日間行幸啓され、その御無事を祈念する祭典を月次祭の時に斎行しました。総代・崇敬者等十名程度の参列でありました。尚、毎朝の日供祭でも

日供祭祝詞と併せて両陛下行幸啓安泰祈願の祝詞を奏上してをります。

祭典後には宮司から「皇室典範」改正案についての話がありました。女性皇族が民間人に嫁いだ場合、これまでと違い皇族の身分のままとする法案については、大いに問題である等の話でした。

【推薦図書】

『里山』入門

「一冊でまるごとわかる」

二千九十円

富田啓介 著

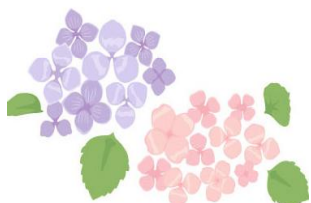
わが国の原風景と言つてもよい里山が危機的な状況にあります。それは里山を見回

すと必ずと言つて太陽光発電のパネルがあるからです。里山一面初夏には早苗の靡く水田には故郷の山々が映えてゐるのですが、今やその美しい里山は消えかけてゐるのです。里山の復活には「里山」の歴史を知らなくてはなりません。一人でも多くの方に、里山を守らなくてはの思ひをもつて貰ひたく、紹介する次第です。



〈目次〉紹介

- 第1章 まず知っておきたい里山の基礎知識
- 第2章 里山を構成する様々な景観要素
- 第3章 里山に生きる仲間たち
- 第4章 里山で人は自然とどう向き合ってきた
- 第5章 今、里山が大変だ！
- 第6章 里山を保全するための考え方
- 第7章 里山へ行ってみよう！



本居宣長

『直毘靈』を読む(十五)

そもそも、天地の理りはしも、すべて神の御所為にして、いともいとも妙に奇しく、靈しき物にしあれば、さらに人の限りある智りもては、測りがたきわざなるを、いかでかよく極めつくして知ることのあらむ。

然るに、聖人の言へる言をば、何ごとまた理りの至極みと、信け尊みをこそいと愚かなれ。かくて、

その聖人どもの行為にならひて、後々の人どもも、万づのことを、己が悟りもて推し量りごとするぞ、彼の国の癖なる。大御国の物学びせむ人、是をよく心得をりて、ゆめから人の説にな惑はされそ。

(続く)

【現代語訳】

そもそも、天地の道理といふものは、総じて神のするご行為であつて、まったくまつたくすばらしく神秘的で不思議なものである。人間の限界ある知恵では推測しにくいことであるので、どうしてそれを極め尽くして知ることができやうか、できるはずがない。さうであるのに、聖人が言った言葉を、どんなことでもひたすら道理の最高のものと信じ尊敬してゐるのは、たいへん愚かなことである。このやうにしてその聖人たちのした行為に倣つて、ずっと後世の人たちもすべてのことを自分の判断力をもつて推量をしてゐくことは、あの国(中国)の癖である。尊敬するこのお国(日本)の学問をしようとする人は、この点を十分

に理解しておいて、決して中国の人の言葉に惑はされてはならない。

「昭和百周年」にあたり

昭和二年三月、アメリカから友好親善使節が来日し、横浜港にて歓迎会が行はれました。その折に、四十cm位の華やかな衣装を着た青い目の人形が日本の子ども達に贈呈されることになりました。

童謡の「青い目をした人形」(作詞・野口雨情、作曲・本居長世)は大正十年に発表されましたが、この昭和二年の日米友好親善の行事によつて、広く歌はれるやうになりました。

一、青い目をしたお人形はアメリカ生まれの
ビルロイド 日本の港へついたとき 一杯
涙をうかべてた

二、わたしは言葉がわからない 迷子になった
うななとしよう やさしい日本の 囁ちゃん
よ 仲よく遊んで やつとくれ 仲よく遊んで
やつとくれ



【護国神社みたままつり】のご案内

8月5日(水) 十時

昭和百周年の節目の年であり、昨今の不穏な世界情勢を見聞きするなか、今の平和の有難さを痛感すると共に、先の大戦等で犠牲になられた三千三十三柱の英霊に対し、今こそ感謝と平和の祈りを捧



げなければと思ひます。

岩国市民の守り神として鎮座する護国神社に感謝の誠を捧げませんか。

献灯される方は、一灯二千円で受付してゐます。

【久しぶりの神前結婚式】

当神社で結婚式が挙行されました。新郎はアメリカ出身の方でしたが、日本式に羽織袴で、誓詞も立派な日本語で流暢であり感激を致しました。



勤めの関係で岩国に在住した縁により、新婦と出会ひ、神前での挙式を選択された事に神社人として嬉しく思つた次第です。

また、新郎のご母堂様も紋付きの着物を、これも立派に着こなされ感銘を致しました。このように日本の文化・伝統に積極的に触れていただき有り難く喜びと共に感謝を致しました。